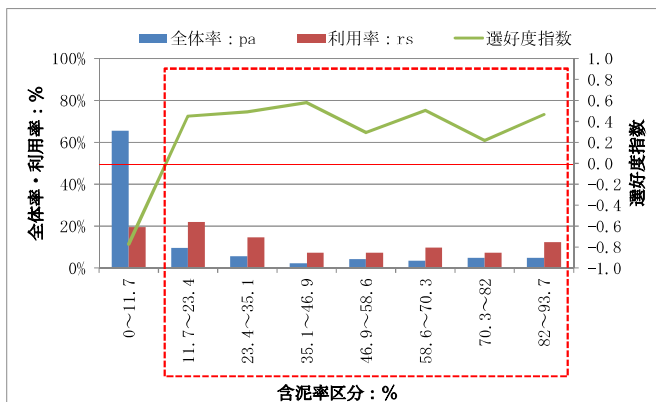
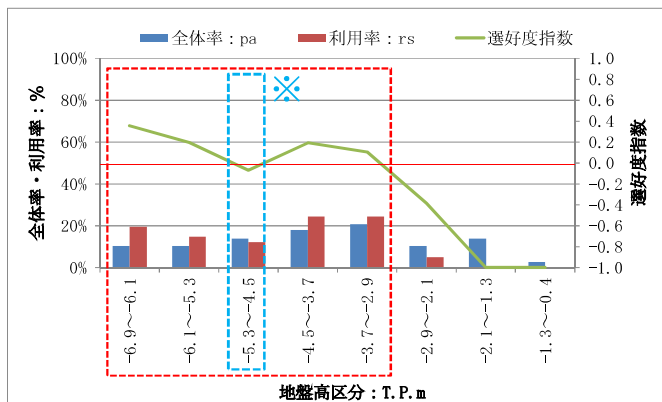


■ 浚渫の影響評価 ～ハビタット区分2の指標種のモデル化①～

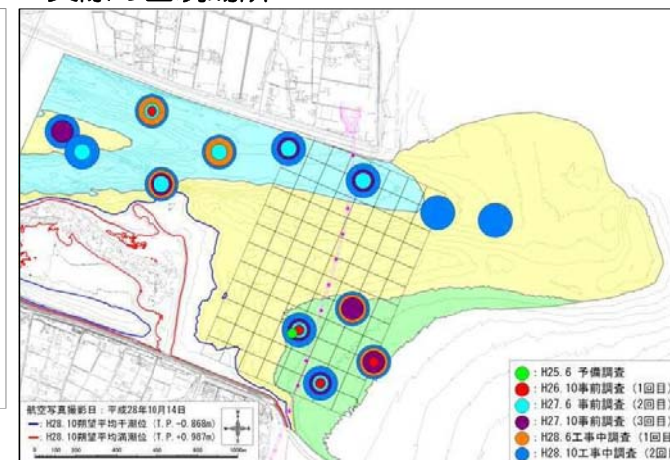


■ チヨノハナガイの選好度モデル

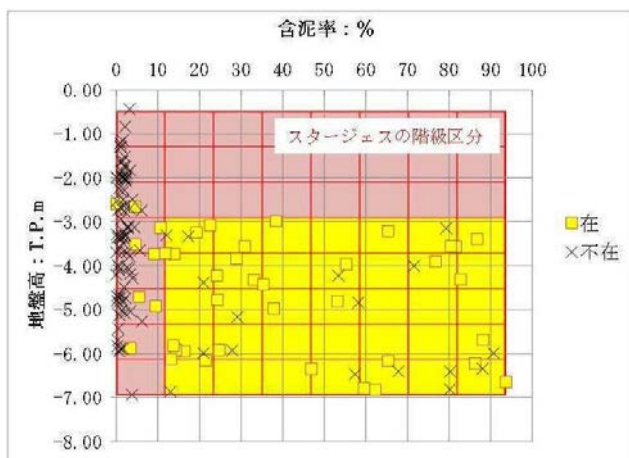


※ 飛び地をなくすため選好度指数0.0未満の範囲も好適とみなす。

■ 実際の出現場所



■ 選好度モデル



■ 選好度判定

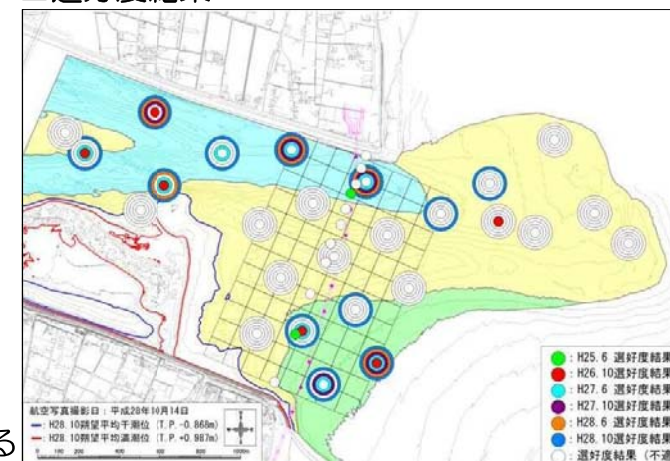
判定	不在	在	合計
選好性無し	87	8	95
選好性有り	17	33	50
合計	104	41	145

■ モデル正解率

感度	80.5%
特異度	83.7%
正解率	82.8%

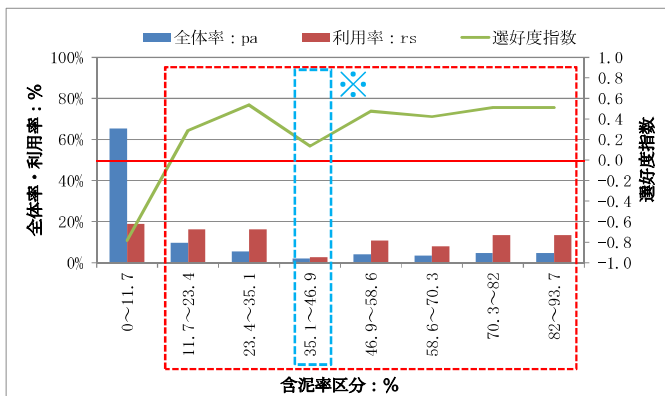
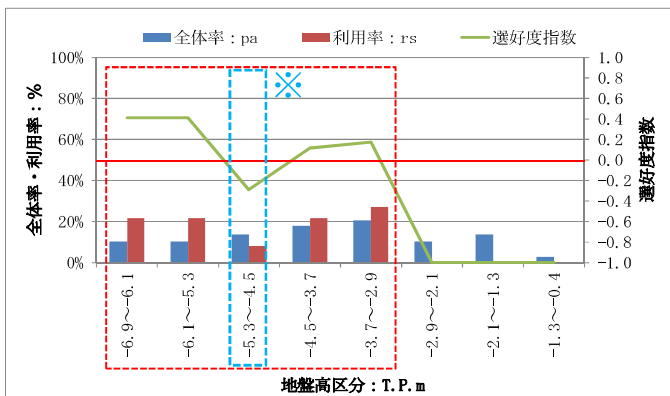
- ・ 地盤高：T.P.-6.9m～-2.9m
- ・ 含泥率：11.7%～93.7%
- ・ 全データ(n=145)に対してモデルを適用すると50箇所が好適性と判定 **※正解率82.8%**

■ 選好度結果



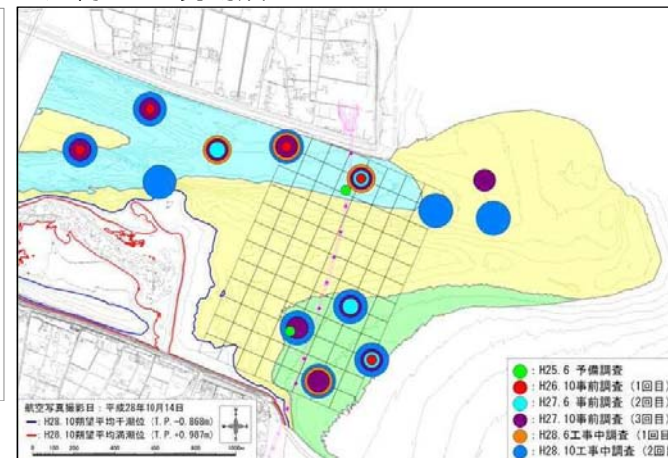
■浚渫の影響評価 ～ハビタット区分2の指標種のモデル化②～

■シノブハネエラスピオの選好度モデル

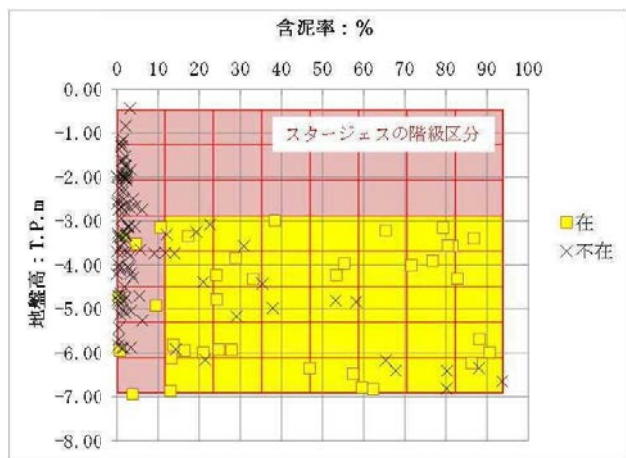


※ 飛び地をなくすため選好度指数0.0未満の範囲も好適とみなす。

■実際の出現場所



■選好度モデル



■選好度判定

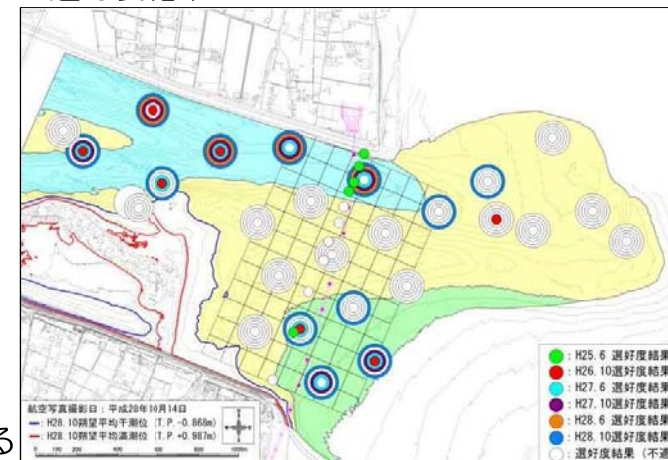
判定	不在	在	合計
選好性無し	88	7	95
選好性有り	20	30	50
合計	108	37	145

■モデル正解率

感度	81.1%
特異度	81.5%
正解率	81.4%

- ・地盤高：T.P.-6.9m~-2.9m
- ・含泥率：11.7%~93.7%
- ・全データ(n=145)に対してモデルを適用すると50箇所が好適性と判定 ※正解率81.4%

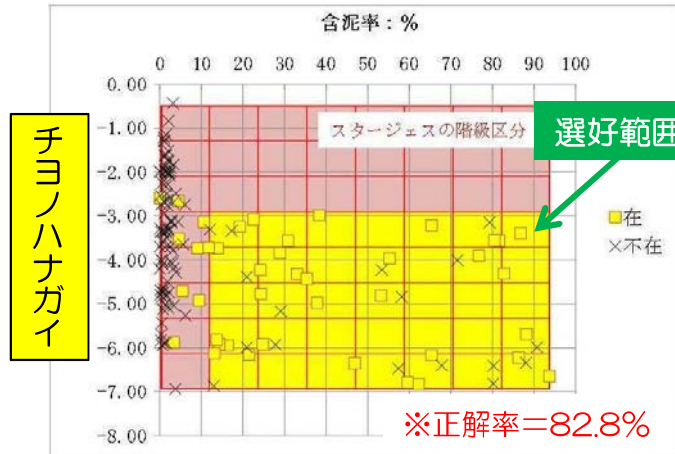
■選好度結果



■浚渫の影響評価 ～ハビタット区分2の指標種のモデル化③～

区分2の指標種の生息評価モデルには含泥率が必要であるため、調査地点のみの評価に制限された。チヨノハナガイは区分2で15地点確認されたことに対し12地点が生息可能場と評価し、シノブハネエラスピオは12地点確認されたことに対し11地点が生息可能場と評価された。これより、モデルでは区分2に出現した種が区分3でも出現することが示され、実際の出現状況も同様であった。

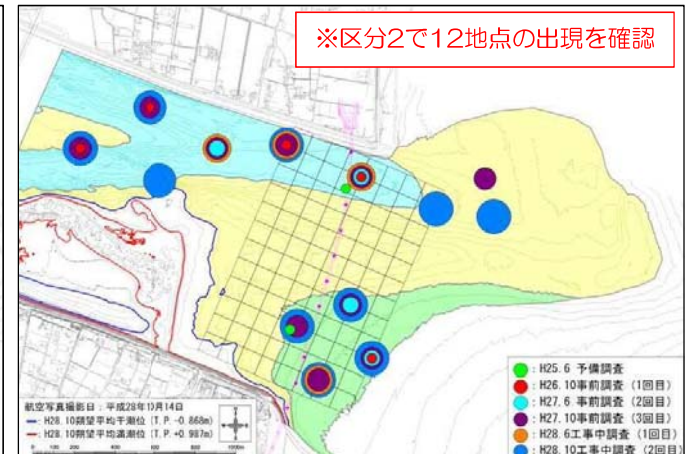
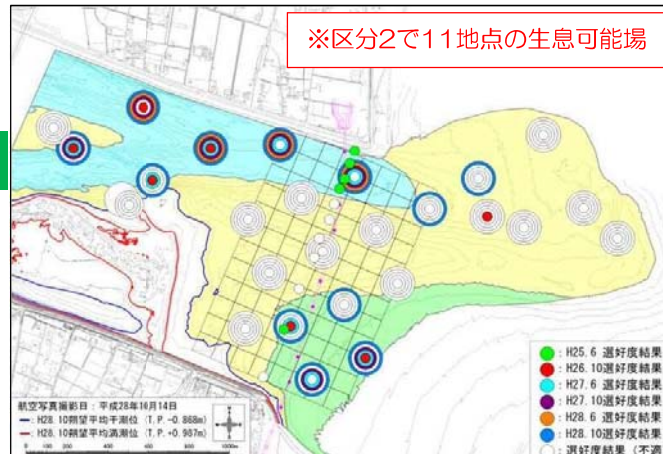
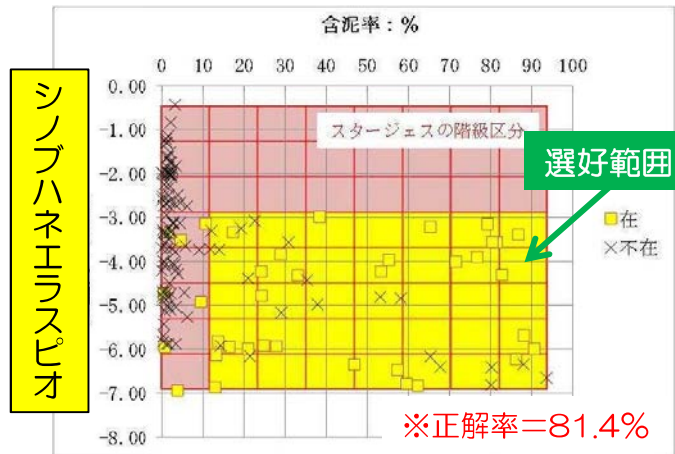
■選好度モデル



■選好度結果



■実際の出現場所

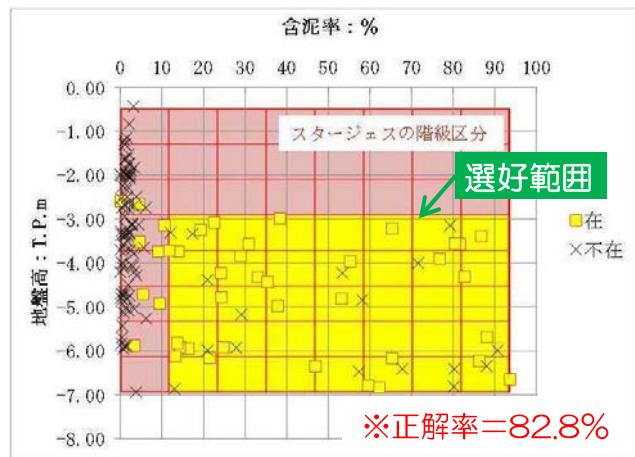


■浚渫の影響評価 ～ハビタット区分2の指標種のモデル化④～

調査年月ごとのチヨノハナガイの選好度結果と実際の出現場所を示す。

チヨノハナガイ

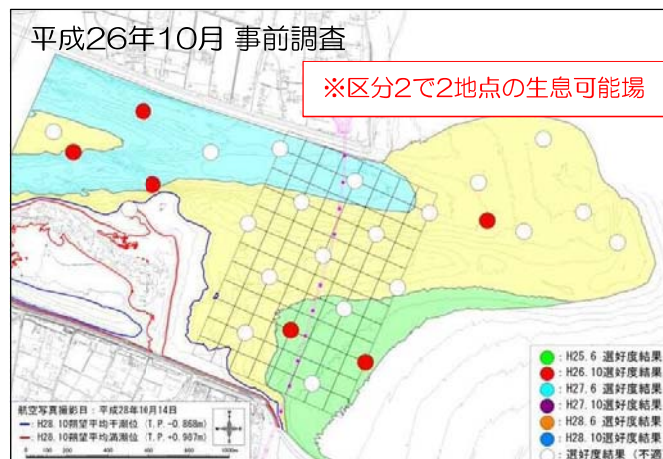
■選好度モデル



■選好度結果

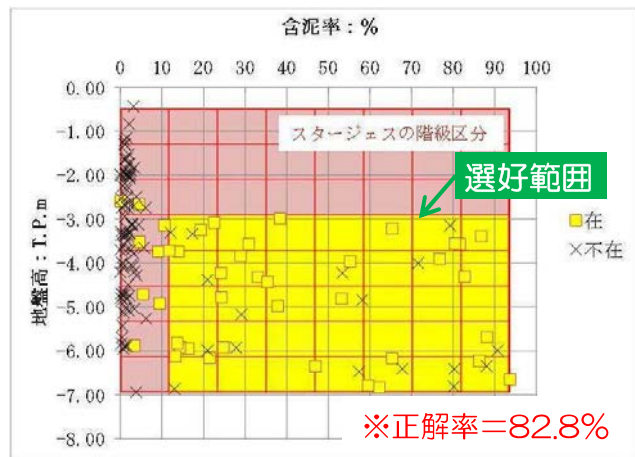


■実際の出現場所

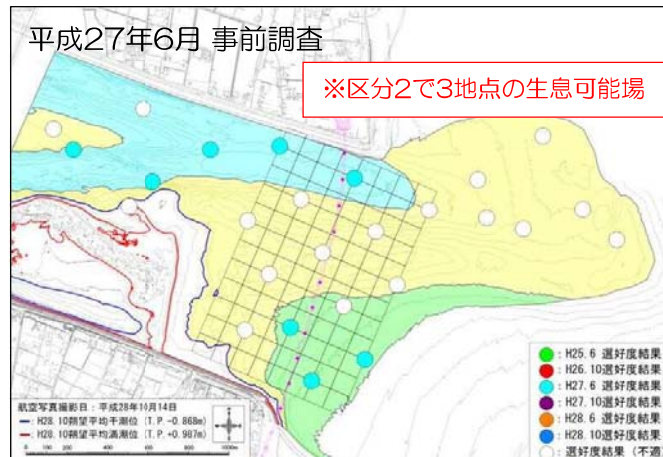


チヨノハナガイ

■選好度モデル



■選好度結果



■実際の出現場所

